

飯田恭研究会

— ヨーロッパ経済史・社会史・環境史 —

1. 研究分野

本研究会では、ヨーロッパの経済史・社会史・環境史について学習・研究する。とりわけヨーロッパにおける農業と林業（およびそれを営む社会、それをとりまく環境）の史的発展を長期的に考察しながら、ヨーロッパ史の世界史における特殊性（非ヨーロッパとの違い）と、ヨーロッパ内部の地域差について学習・研究する。

以上の内容について、日本語および英語の文献を読みながら、学習・研究を進める。なお、担当教員の専門はドイツ史であるため、ドイツ語が読める人には是非ドイツ語文献にも取り組んでほしい。

2. 学生への要望

研究会での目標は、論文（三田祭論文や卒業論文）を書くということである。では論文を書くということはどういうことか。それは、厳密に言えば、新たな「知」を生産する（オリジナルな説を提示する）ということである。だが、そこに至るためにには、まず先人たちが蓄積してきた膨大な「知」（=著書・論文）を、労を厭わず読み重ね、それを正確に理解しなくてはならない。さもなければ、何が新しい知（オリジナルな説）たりうるのかも分からぬからである。その上で、自ら原史料を読んでそれを分析し、そこから新しい知見を産み出さなくてはならない。

今日のヨーロッパ史学の水準を考えたとき、学部生の段階でこのような厳密な意味でオリジナルな論文を書くことはほぼ不可能である。そこで、ヨーロッパ史で論文を書きたい学生に

は、英文ないし研究対象地域の言語で書かれた最新の（あるいは日本で未紹介の）著書を読破し、それを日本の学界に向けて紹介する、という水準を達成してほしい。これは一見簡単なことのように思われるが、分厚い洋書を一冊読み上げるのに、先輩たちがいかに苦労してきたことか。新たな「知」を生産する意欲のある人は、その前に、是非この地道な作業にこそ挑戦して「知的基礎体力」を鍛えてほしい。

ドイツ語文献にチャレンジする人は特に歓迎する。ドイツ語が未習だが、ドイツ語の文献にチャレンジしたいという学生向けに、三田でもドイツ語初習クラスが開設されている。また担当教員は例年、「専門外国書講読（ドイツ語）」を担当している。積極的に活用してほしい。

研究会では、ヨーロッパとの比較で日本の農業史・林業史の文献も読む。またそのテーマで論文を書くこともできる。日本史の場合、自分のテーマに関する過去の研究文献を読破した上で、史料の分析に取り組み、ある程度独自の知見を産み出すことが求められるが、担当教員には日本史の史料の読解や収集方法について指導する能力がない。経済学部では、松沢裕作准教授によって「日本史史料講読」という授業が開設されているので、日本史で論文を書きたい学生は、必ずこれを併せて履修すること。

3. 選考について

- a. 募集人員：6名程度
- b. 選考内容：レポート・面接・成績表の提示
- c. 他学部生の入ゼミ：可

PEARL生の入ゼミ：不可

d. 選考基準：レポート・面接・成績表から、研究を遂行していく上での前提条件（明瞭な問題関心・勤勉さ・語学力・経済史の基礎知識など）が備わっているかを判断する。

4. ゼミ構成員

4年生：男子3人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生：男子3人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ

火曜 4, 5 限

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

例年12月に塾内の経済史、社会史系のゼミとインゼミを行い、三田祭論文の発表とディスカッションを行っています。

⑤課外活動

親睦を深めるため、食事会などを行っています。

⑥三田祭

3年生は三田祭論文コンテストに向け、論文作成に取り組みます。

⑦夏休み

三田祭論文に向けて自主的に資料、文献を読み進めます。また、定期的に集まり、手に入れた情報を共有することで三田祭論文のテーマを具体的なものにしていきます。

⑧合宿

行っていません。

⑨ゼミ必修授業

2（学生への要望）を参照。

⑩経費

年会費、合宿費等は必要ありません。輪読文献を買う際は自費での購入になります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミで扱っている輪読文献を読む他、特に森林や農村について興味を持ったものについて色々調べてみることがゼミ試験対策になるとと思います。

7. 先生が担当している講義

経済史入門 I (日吉)

歴史的経済分析の視点 (日吉)

欧米経済史 a (三田)

専門外国書講読 (ドイツ語) (三田)

8. ゼミ HP・SNS

Twitter: @seminariida

9. 連絡先

Twitter の DM